

## 2017年度特定研究奨励金 報告書

### 報告者所属・氏名

所属	文学部美学美術史学科	氏名	児島 薫
----	------------	----	------

### 奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

1. 「生誕 150 年記念藤島武二展」（練馬区立美術館、鹿児島市立美術館、神戸市小磯記念美術館を巡回）のカタログ論文「藤島武二-油彩画の探求者」を執筆した。原稿の中では、藤島武二のスケッチ帖（個人蔵）の内容を調査したことに基づき、油彩の完成作と比較して論じた。藤島は完成した風景画では特定の日時の写生画ではなく、より普遍的な風景美を表そうとする傾向があるため、スケッチと比較することで、その変化を知ることができた。藤島は国立公園に指定された瀬戸の風景も描いており、これらの風景画については、展覧会場（練馬、神戸と2会場で見学）でも調査した。

2. 福岡市アジア美術館で開催された国際シンポジウム「移動する画家と東アジア近代美術の形成」（11月18日）に参加。東アジアの画家たちが1930年代頃に描いた「異郷」「故郷」のイメージなどについての研究発表があり、九州大学、韓国、台湾の近代美術史研究者と意見交換をすることができた。

3. 香雪記念資料館で「朝倉摂-リアルの自覚」展（11月18日-12月8日）を企画開催。その準備として、朝倉の参加した団体の日本画家たちの戦中の活動（福田豊四郎、伊東深水、山本丘人、吉岡堅二）について資料調査をおこなった。戦後になるが朝倉は佐藤忠良、中谷泰といわきの炭鉱、千葉や北陸、東北の漁村を写生してまわる。敗戦後の価値転換の中で日本人の生活の原点に戻ろうとする逆説的な日本の「原風景」のイメージが模索されていたことになり、戦前との比較の上で興味深い事例である。朝倉摂作品が多数寄贈された福島県立美術館にて展示がおこなわれたので、出張し調査をおこなった。また中谷泰に関しては、「中谷泰展」（2013年）を担当された三重県立美術館学芸員の方より助言をいただいた。成果の一部は、展覧会のために作成したパンフレットに反映したが、論文としても発表したい。